

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

**よくも悪くも、必ず変化する 西成 活裕 (東京大学先端科学技術研究センター教授)**

1. 数学が大好きで、大学に入ってから、物質の流れに関する研究をしていた私は、「人の流れ」について研究を始めました。その名も「渋滞学」。「渋滞学」において欠かせない考え方に、「逆を考える」があります。「急がば回れ」ということわざがあります。混雑した近道を通らず、遠回りでも空いている道に行くほうが早く目的地に着く、これは科学的にも正しいのです。
2. 人は、本能的に、目の前の利益に飛びつく傾向があります。例えば、「明日1万円もらうのと、今すぐ5千円もらうのと、どちらがいいか」と問われれば、今すぐ5千円が欲しいと思ってしまう人も多い。そういう思考の傾向を「現在志向バイアス」と呼びます。この目先のことにとらわれる「現在志向バイアス」に振り回されないために、私は一瞬立ち止まって、本当にこれでいいのだろうか、「逆」を考える時間を持つようにしています。
3. よくも悪くも、今の状態がずっと続くわけではありません。時間とともに、必ず変化します。目の前のことに一喜一憂せず、長いスパンで物事を考える。うまくいかないときは、焦らず立ち止まって、視点を「逆」に向けてみる。そうすると、人生、得することが増えるのではないかな、と私は思っています。

(参考:「PHP」2020年4月号)

## 人事労務について

### ダイキン情報大学と東大とのインターンシップ

1. ダイキン工業は教育制度を充実させた。2018年度に開校した社員向けのダイキン情報技術大学では、技術系の新入社員のうち、100人に2年間は仕事を与えない。その代わりにひたすらAIやIoTなどの最先端技術を教育する。大阪大学の副学長が社内大学の学長に、教授や助教が講師となり、最先端の理論やケースを教えていく。
2. 東京大学と取り組んでいるグローバルインターンシップも異例の制度だろう。2018年末から10年で100億円の資金を投じて産学協創協定を締結。その枠組みで、東大の学生50人を対象に、ダイキンのグローバル拠点を回り、新たなビジネスモデルを考えてもらうインターンシップも始めている。

(参考:「日経ビジネス」:2020年2月10日号)

## ワンポイント経営アドバイス

### SDGsの広がり「よい会社」の基準を上げる

1. 国連が提唱する「SDGs (持続可能な開発目標)」という言葉が聞かない日はなくなった。多くの社会課題が示され、日本企業も積極的に活動している。「これからはCSR (企業の社会的責任) からSDGs」という声も出始めた。CSRは「責任」という言葉に象徴されるように業務的な面が強く、大きな目標であるSDGsのほうがよりビジネスと関連した活動ができると考えられているようだ。
2. CSRに詳しい多摩大学大学院客員教授の藤井敏彦氏は、「SDGsはCSRのやらされ感を脱したと評価できるが、本来行わなければいけない取り組みがおろそかになる危険性もある」と警鐘を鳴らす。SDGsの広がり、「よい会社」の基準が高くなることも忘れてはならない。新たな規範となり細かなルールも生まれる。将来的にはCSR同様に義務的な面がより強まってくるはずだ。

(参考:「週刊東洋経済」2020年2月22日号)

## 古典に学ぶ

### 孟子の教え

(解説) 孟子は、利殖と仁義道徳とは一致するものであるといった。その後の学者がこの両者を引き離してしまった。仁義をなせば富貴に遠く、富貴なれば仁義に遠ざかるものとしてしまった。町人は素町人と呼びて賤しめられ、士とともに齢いすべきものではないとせられ、商人も卑屈に流れ、儲け主義いつてん張りとなった。これがために経済界の進歩はいく十年いく百年遅れたか分らぬ。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)